

心に響いたのではないでしょう。大人になり、社会人として各々のフィールドで活躍している皆が凛々しく見えるのと同時に、同窓生として刺激を受ける一時となりました。この余韻を楽しみつつ、また次の再会があることを願っています。(松嶋 史絵)



平成19年12月30日
ホテルグランヴィア岡山 10名の恩師と143名の同期生



ラグビー部OB会

朝日校ラ
グビー部O
B会は、2
008年8
月1日付け
でラグビー
部OB会ホ
ームページ
を作成した



しました。
アドレスは左記のとおりです。
asahi-ugby@sakura.ne.jp
OB会の活動状況、現役選手
の活躍情報、OB相互の連絡に
役立つと思いますので、御活用
ください。
(昭46卒 大塚 荘治)

テニス部・1月3日初打ち会

昨年はコートコンディション
不良のため中止となりました
が、今年は晴天が続き、1月3
日の合同初打ち会は久し振りに
母校コートで開催されました。

顧問の則近・土谷・平田の各
先生方もご参加頂き、現役部員
は男女合わせて13名、又当日突
然(?) 観戦参加の平成15年卒
業のOG8名とOBを加えて合
計36名の盛大な会となりました。
午後1時半より瀧会長の挨拶
から始まり、参加者全員の自己
紹介のあと、現役対OBのダブル
スの試合を行い、試合後には
現役はOBからアドバイスを
受けていま

した。又久
し振りの再
会でOB同
士の親善試
合も行われ
本当に楽し
いひととき
を持つこと
が出来まし
た。
(昭32卒 瀧 正敏)



吹奏楽部・弦楽合奏部OB会

昭和38年卒〜平成卒までの吹
奏楽部・弦楽合奏部に在籍した
仲間が集まった。

自己紹介では、在籍当時の思
い出や、卒業後音楽を通しての
人生が語られた。

現在、在校生は管弦楽団とし
て定期演奏会やオーケストラフ
エスタ等ですばらしい活動をし
ており、顧問の松北先生からは
現況の報告をいただいた。

コーラス(合唱)部もあつた
ことから、そのOBにも働きか
け、現在の管弦楽団OBも含め
将来は、音楽関係部活動OB会
にしてはとの提案もあつた。

平成14卒以降の管弦楽団OB
が今年の同窓会総会・懇親会で
演奏を企画して、大講堂でその
練習を見学した後解散した。

楽器演奏を通して音楽に親し
むことが出来た喜びを改めて感
じた一日だった。
(昭46卒 光畑 俊行)



平成20年8月16日(土) 午後2時〜
六高記念館

書道部

河田一白回顧展盛大に開催
予想以上の反響

昨年12月18日から23日ま
で、約2年間の準備期間を経
て、岡山県天神山文化プラザ
において河田一白先生の大回
顧展を開催しました。

河田先生は昭和25年から21
年間、朝日高校書道教諭とし
て熱心に書道教育・人間教育
に取り組まれました。また、
日本書壇においても次々に斬
新な作品を発表され、大きな
足跡を残されました。

数年前から書道部卒業生の
間で、「一白先生の作品をこの
まま眠らせておくのは勿体な
い」「先生の作品を一堂に集
めた回顧展を開きたい」との
声があがっており、没後7年
を迎えたこの時期にやらない
と機を逸してしまうとの思い
もあつて実施に踏みきりまし
た。

代表的な作品をどう探し出
すか、必要な経費をどう捻出
するか、課題は山積していま
したが、書道部OBは勿論、
多くの方々の協力により何
とか開催にこぎつけました。

わずか
6日間の
会期では
ありまし
たが、全
国各地か
ら多くの
方のご来
場をいた
だきまし
た。
会場で



耳にした感想は実に新鮮かつ
率直なもので、ここにそのい
くつかをご紹介します。
「こんな展覧会は見たこと
がない。変化があり飽きな
い。」
「心の洗濯をさせて貰いま
した。」
「書道の領域を超えてい
る。」

「これだけ多彩な表現の出
来る書家はいない、力があ
るといふことでしょうか。」
「鳥肌がたちました、びっ
くり仰天です。」
また、著名な書評論家であ
る田宮文平氏は、「戦後にお
ける書道史の中で、今後再評
価されるべき書家」と極めて
高く評価されています。

展覧会開催に併せ、展示作
品の作品集を作成し、県内
は、高校、大学、図書館、岡
山・倉敷市内の中学校、公民
館へ、また、全国の書に関心
のある美術館、大学、中央書
道団体、出版社等へ広く贈呈
し、多くの方々から丁寧な礼
状をいただきました。

さらに、本年4月には県か
ら平成19年度「岡山芸術文化
賞功労賞」授受の栄を受けま
した。また、芸術新聞社発行
の書道専門雑誌「墨」5・6
月号で、この回顧展が大きく
取り上げられるなど、予想以
上の大きな反響に、改めて河
田一白先生の偉大さを再認識
するとともに、多くの方々の
有形無形のご支援の賜と深く
感謝し、ご報告とさせていただきます。

(昭32卒 山崎 信義)